

学生優秀発表賞受賞者：島田美香 演題番号 094

セラビジョン細胞鑑別教育ソフト(WebPRO)による 自己学修の有用性について

島田 美香*1§ 井関 理紗*1 佐々木 愛紗*1

本多 翠*1 春日 加奈子*2 阿部 美紀子*1

I. 研究の概要

【背景・目的】

疾患を同定するにあたり血液細胞鑑別は重要な役割を果たす。しかしながら目視分類は主観的判断に依存するため、個人差が大きく問題になっている。そこで、臨床検査技師育成時において目視分類の標準化を図ることで将来的に主観的判断による差の減少が見込めると仮説を立てた。今回の目的はその仮説を証明するためにセラビジョン細胞鑑別教育ソフトである WebPRO を用いた学修の有用性について検討を行った。

【対象および方法】

対象は本学 52 名の学生とした。末梢血の白血球 100 細胞について 15 分間細胞分類試験を行い正答率を算出した。分類細胞は分葉核球、桿状核球、リンパ球、単球、好酸球、好塩基球の 6 種類とした。1 回目試験の 2 週間後に 1 回目の不正解細胞、形態学的特徴の自己学修を 15 分間行った。その後 1 回目同様に、正常末梢血 100 細胞を 15 分間で分類した。これら 2 回の試験の細胞分類の傾向を分析し目視分類の標準化や、WebPRO を用いた自己学修の有用性について検討した。

【結 果】

自己学修後の 2 回目の試験において全体平均値

は+28%と有意に上昇した ($p < 0.01$)。その特徴として 1 回目の試験における誤分類の割合 (分葉核球を桿状核球とした: 30.2%) が復習後 12.1% と有意に減少したことが挙げられる。また、鑑別が難しいリンパ球と単球ではリンパ球を 1 回目 13.7% 単球に分類していたが 2 回目では 6.9% と有意に改善された。

【考 察】

今回の調査結果より、学修前は細胞鑑別に学生間の差が存在することが明らかになった。しかし自己学修を行うことで大幅に減らすことができた。また、WebPRO による自己学修は実際に試験に使用した不正解細胞を用いて復習することで自身の誤認の傾向を知ることができた。今回の自己学修は短時間ではあったが鑑別に難渋する細胞像を自ら把握しそこを重点的かつ効率的に復習できたことが点数の上昇に繋がったものと考えられる。

II. 受賞の感想

この度は第 12 回日本臨床検査学教育学会学術大会において「優秀発表賞」を受賞することができ、大変光栄に思っております。本学臨床検査学科は平成 26 年に設立され、我々の学年が第 1 期生となります。そのため今回の学術大会での発表は私自身だけでなく、本学臨床検査学科学生全体と

*1 つくば国際大学 医療保健学部 臨床検査学科 §c1429033@tius.ac.jp、*2 セラビジョン・ジャパン株式会社

しても初めての学会発表でした。

我々は直前まで発表内容を調整し、より良い発表ができるよう取り組みました。当日は最初こそ緊張しましたがとても充実した時間であったと感じております。また、他大学の発表を聞き、とても刺激を受けたのを覚えています。

初めての発表で満足のかない点もありましたが、今回このような場で発表でき、とても貴重な体験となりました。また「優秀発表賞」という大変名誉な賞を頂き自信となりました。

血液像の細胞鑑別は疾患の診断に有用ですが顕微鏡を用いた学修には限界があり、学生間に理解の差が生じていることが顕在化していました。今回の教育ソフトを用いた自己学修に関する研究が今後の臨床検査の教育の場で活かされるよう今後は検証検体数を増やし、より量的・質的な詳細分析を期待します。

III. 将来への抱負

今回受賞させていただいたことで今までの努力が報われたと感じ、これからの励みとなりました。

今回の経験を活かし、来年度からは社会人としてこのような発表の場に積極的に参加していければと考えております。

参考文献

- 1) 市村直也, 糸井彩子, 甲田祐樹, 他. 顆粒球幼若細胞分類における内部精度管理の構築と技師間差是正効果の検証, 医学検査 2017; 66(1): 25-31.
- 2) 澤田朝寛, 常名政弘, 山本剛正, 他. Cellavision Proficiency Software (WebPRO)を用いた血液形態学検査 e-ラーニングの試み, 日本検査血液学会雑誌 2017; 18(2): 207-13.
- 3) Horiuchi Y, Tabe Y, Kasuga K, et al. The efficacy of an internet-based e-learning system using the CellaVision Competency Software for continuing professional development. Clin Chem and Lab Med 2015; 641: e127-31.
- 4) Horiuchi Y, Tabei Y, Idei M, et al. The use of CellaVision competency software for external quality assessment and continuing professional development, J Clin Pathol 2011; 64: 610-7.